

師範会会長を仰せ付かって のご挨拶とお願い



今年春の師範会総会の折、年長でもあり秋田県梅花発足当りよりの関係の故を以って会長におかれ就任いたしました。

私は小僧時代からお師匠様に「お前はカマドの火の性で、人様の上に立つ性格ではない、いつも誰かにたきつけて貰らうて動くのが性に合っている」と良く言われて来ました。私もそう思い、又その様に今に至っておるとつくづく思います。

しかし「任に當って他に譲り難し」で、秋田県師範会の纏の役として、明日に向かって前進する事を念じて良く語り乍ら良い方向を見出し出て行くように、各師範詠範の助言と檀信徒講員のバックアップをお願い申し上げます。

今年終戦五十周年に当り各

方面で過去の歴史を踏まえて平和の誓を新たにしている行事が行われておりますが、宗門でも去る五月九日十日広島に於いて終戦五十周年平和祈念法要と全国奉詠大会が開催されました。



比内町 全応寺住職 佐藤仁鳳

大会場一杯の参加者の半数以上のお方は、大なり小なりあの大战の中を生き抜いて来た人達とお見受けしました。平和祈念法要では二度と間違いを起さぬ不戦の誓を新たに平和祈念御和讃を、物故者追善法要では戦の庭に斃れた将兵と民間の人々の霊に深く頭を垂れ安らかに眠り下さいと声高らかに

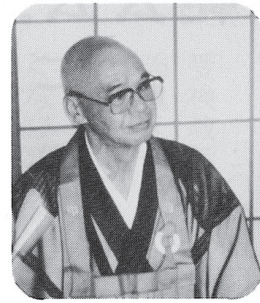
平成7年8月10日
第10号
題字 大館市宗福寺東堂 加藤信三老師御染筆
発行所 北秋田郡鷹巣町七日市 龍泉寺内 秋田県梅花流師範会事務局
発行者 佐藤仁鳳 (広報部) 保坂春聴
編集所 北秋田郡森吉町米沢 武石印刷
印刷所 武石印刷
☎0186-72-3319

—ページあんない—

- P2 新事務所長あいさつ
- P3 特派巡回報告
- P4~P5 秋田を巡って(特派講習会)
- 故佐藤広俊一級師範の功績を称えて
- P6~P7 おらほの梅花構
- P8 こころをよむ
- P9 ちよつとぶじよほう
- P10 検定(心得・教階毎の留意点)

に戦災精霊御和讃をお唱えさせて頂きました、
私もあの大战中一兵として動員され終戦後シベリヤに抑留、厳寒の地で食うに食なく栄養不良で無念の涙を流して異国の地に果てた戦友の姿が目には浮かび目頭を押さえました。前日同じシベリヤで労苦を共にした戦友と四十八年振りに再会し、昔話をした事などが一層その憶を深くしたのかも知れません。大会前日、平和公園にて秋田県の参加者百余名は、原爆慰霊堂の前で奉詠してご回向を申して来ました。
秋田県の奉詠大会は、来る十月十九日天王体育館にて「終戦五十周年平和祈念秋田県梅花流奉詠大会」として開催されます。秋田の空に不戦の誓も高らかに亡き精霊の為に真心込めて、ご一緒に詠讃歌をお唱え致しますよう。
多数の御参加をお待ちしております。

秋田県宗務所 梅花講長に就任して



宗務所長
三浦昭一

宗制によると、各宗務所に梅花講を設けその講長に宗務所長をあてる：：とあります。従って不肖私が昨年十二月所長に就任したので同時に宗務所梅花講々長に就任する次第となりました。

この宗務所梅花講は各寺院梅花講をもって組織し講長は各寺院梅花講の指導育成にあたる：：となっています。梅花流師範の資格のない私が講長になるとは、真におこがましいことで、まして指導育成など思ってもよらぬことですが、重大な任にあることを自覚し出来る限りの努力をして参りたいと思います。

私は宗務所長となり最も切実な思いを抱くことは、お寺やお坊さんが望むことと檀信徒が求めることとの間に相当のギャップがあり、お互いの無理解によってときには寺檀粉争という悲しい局面に至ることです。お坊さんは、お寺の指向するところは宗旨

の普及であり檀信徒のお寺に期待するところは端的にいえば葬祭に終始します。つまりあるべき姿とある姿に問題が生じます。この重大問題を止揚する一つの方策が梅花流の推進発展であろうと思います。事実わが宗門の戦後の生成発展は一に梅花流にあったといつて過言でありませぬ。戦後五十年目の節目にあたり梅花流の増々の発展を祈念するものであります。

十月十九日には、天王町総合体育館を会場にして「終戦五十周年平和祈念秋田県梅花流奉詠大会」を開催致します。講員の皆さんはもちろん、県内在任の多くの檀信徒の皆さんにも参加していただき、平和の祈りを捧げたいと思います。

五年に一度の“出会い”

あれから50年

終戦50周年平和祈念 梅花流秋田県奉詠大会



日時 平成7年10月19日（木）
会場 南秋田郡天王町・天王町総合体育館
午前8時30分より受付
午前9時40分より開会式

※詳細は各寺院へ御聞き下さい。

詠讃歌と尺八の出会い

心のハーモニー (VII)

日時 平成7年10月29日（日）
午後1時30分開場。2時開演。

会場 能代市・文化会館大ホール

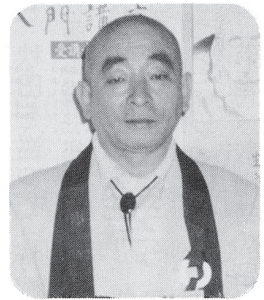
入場料 1,500円

※事務局 能代市仁井田

倫勝寺内 山田晃一 ☎0185-58-2302

消 息

新・梅花主事



男鹿市
清松寺住職

佐藤勝義

これまで四年間、梅花主事として県梅花講の普及発展に尽力下さいました合川町正法院住職の清水忠道師は、昨年暮れより教化主事としてより大きく活動することとなりました。感謝申し上げますと同時に活躍を期待します。

特派巡回報告

「勉強にナリマス」

三重県第一宗務所巡回

小生の巡回地は、三重県第一宗務所でした。ここは前年、当県の佐々木禪壹師範が巡回された所であり(先年、山形第三宗務所もそうであったが)また、後塵を拝することに相成った次第です。佐々木師範は、さぞかし真面目な講習に終始されたことと拝察されますが、小生は(モットーである?)「楽しくやろう」と思いつつ、途中二度の電車の乗り換えに少々参りながらも、松阪にある宗務所「黙照庵」(秋田という禅センター)に案内されたのがもう夕刻でした。

宗務所長老師もおられまして、そのお話から、梅花流に対する情熱の傾け方に感銘し、こちらで梅花道に精進されている皆様方のしあわせを、しみじみ感じた次第です。三重県第一宗務所は、第一日目が全県奉詠大会になっており、その年の巡回師範が、審査委員長を務めることになっていると言(う)「マイッタ!!」。七十六講、一二六五名の登壇数にして『一言で良いから講評を書いて下さい』ときた。それを各講で持ち帰るのだそうです。最後の講評を終えるや、何日分もの疲れを感じ「楽しくやろう」のモットー?は、初日から見事に吹き飛んだ

だった。甘かったのでアール!。

こちらの講数は、秋田より六〇講近く多いようですが、指導は寺族様に負うところが大きいようです。上級詠範さんも多く、若い詠範さん達も極力、講習会に参加して切磋琢磨されているとのこと、確かに「なるほど」と思う点があります。『師範養成を!!』と強く語られる所長老師のお心が理解出来る訳です。

講習では、開講式における作法等諸注意、立行の練習では、かなりの差があるようでした。午後になると、少々気持ちの緩みが見えるのは致仕方ないところか? ここで



井町寺 昌裕
二善 細谷

新曲の練習をさせて頂き、人権に関するお話をさせて頂くも、部落問題に関しては、実際にあつた話をさせて頂きましたが、反応が鈍いようです。地域によって違いがあると思われれます。総じて、お唱えは熱心で上手く大変ケッコウでした。

皆様もご存知のことと思いますが、昭和四十一年に、国連で採択された「国際人権規約」というのがあります。その項目の中に「選択議定書」というのがあり、それは個人が、人権侵害を、国連の人権委員会に通報出来る手続きを定めたものだが、日本

政府は「法制上の問題から検討している」として批准していない。それに対する対応もさること乍ら国際的尺度で、日本社会の人権意識の程度が測られることでしょう。

二十一世紀目前、今だに奴隷制度があるという。戦利品としての奴隷、「借用料」という言葉で、親が子供を売る例もあるという。お金絡んだ形では、パキスタン、タイなど、食堂や工場、売春宿に売られている。背景に戦争や貧困があるにせよ、今の日本の現状、生活からみたら、皆さんはどのように受けとめ、理解されますか。昨今「セクハラ」が言われています。時代が大きく変わる転換期は、これまでの常識が変わる時だと言われるが、大事なものは、相手を不快にする言動を避けるということでしょう。人と人との自然な付き合い方、相手を思いやる心だと思ふ。相手を思いやる心を持つことは「人権」を尊重する気持ちからでないと思ふと生まれてこないと思いませんか。こちらには本山修行時代、一年以上寝起を共にした同輩がおり、涙の再会となりました(男のクセにといいますが)すっかり修行時代に帰り、二日にわたり話、はなしの山となりました(お互い左手も進んだが)多くの御老師様のお世話になりました。一期一会の尊さ、有難さを改めて知らされ、大変大きなお土産を胸に、巡回を終える事が出来ましたこと感謝に堪えません。

特派講習会

今年も六月十九日より二十七日の九日間にわたり、特派師範による巡回講習会が県内十七会場で開催されました。秋田市より南を新潟県の須戸秀圓師範が、北は福島県の大谷真龍師範がそれぞれ巡回して下さいました。日程終了後に感想を聞いてみました。

司会 巡回御苦労さまでした。早速ですが秋田の講員さんについての感想をお聞きしたいのですが。

須戸 秋田県の梅花講員の皆様、巡回中は色々とお世話に成りました。どこの会場でも一生懸命に受講して頂きました。一番うれしかったのは、受け答えがハッキリとしていて気持ちよく講習が出来たことでした。



須戸秀圓師範

大谷 私の場合も同じです。どの会場でも秋田美人(?)の心温かい講員さんばかりで、すがすがしい気持ちで講習させて頂きました。

司会 巡回中に特に思い出に残ったことや、困ったことなどありませんか。

大谷 一日の講習が終り、次の日

の会場までの移動の間に、男鹿半島を中心にとくさんの観光地を案内して頂いたことです。困ったことは、皆さんの言葉が聞き取れない時があり、聞き直して大変ご迷惑をお掛けしましたこと、これも思い出になりました。

須戸 四つの教区合同で一会場の香積寺様、各教区より御住職様と寺族様と檀信徒様が三十名余り参加してくれました。しかし「こちらの地域には、梅花講は一講もアリマセン」と言う。私は是非とも梅花を咲かせて頂きたいと、梅花流について話をさせて頂きました。寺族様や檀信徒様から沢山の質問が生まれ、心なな教区でした。

司会 普段の練習で大切なこと、心がまえを聞かせて下さい。

大谷 一つは梅花の基本「お誓い」の心を大切にすること。

二つには、上級に進むにつれて必ず大きな壁に突き当たります。この時には、あせらず、一度原点に戻り基礎から先生に直して頂きましょう。どんな事があっても続けることが大切です。

急逝

佐藤広俊師

師範会事務局長



在し日の 佐藤広俊師

故佐藤広俊一級師範の功績を称えて

能代市・玉鳳院副住 柳川 浩二

『第一条、本会は「東北梅花研修会」と称する』

そして第二条から第九条迄と続く。ガリ版刷りによるもので「昭和五十五年発行」とある。そしてこの会には会長職がなく事務局・連絡委員がその運営にあたっていたのである。片隅には「昭和五十三年設立」とのメモ書きも。

これは平成三年七月に解散される迄大変活発に、又頗る充実した活動を展開し、今日の秋田県梅花講を、全国に通じせしめたと豪語して憚らない「県北梅花研修会」の会則である。

私が梅花講員とさせて頂いたのは昭和五十四年でしたが、お誘い頂き、この研修会員とさせて頂いたのは昭和五十五・六年の

平成7年度 梅花特派会場

特派師範 大谷眞龍師

月日	教区	住 所	会場
6.19	9	山本郡山本町下岩川	見性寺
20	9	山本郡峰浜村石川	正伝寺
21	13	男鹿市船越	清松寺
22	2	南秋田郡井川町黒坪	乗江院
23	10	北秋田郡森吉町浦田	源昌寺
24	18	大館市花岡	信正寺
25	18	北秋田郡鷹巣町坊沢	永安寺
26	11	鹿角市尾去沢	円通寺
27		秋田市泉三嶽根	禅センター

特派師範 須戸秀圓師

月日	教区	住 所	会場
6.19	12	河辺郡雄和町相川	相川寺
20	1	秋田市新屋南浜町	勝平寺
21	3	本荘市藤崎	正乗寺
22	4	本荘市内越	香泉寺
23	14	由利郡金浦町	金浦寺
24	5	湯沢市高松	香積寺
25	7	仙北郡雄和町峰吉川	福城寺
26	8	仙北郡田沢湖町	東源寺
27		秋田市泉三嶽根	禅センター

秋田を巡^{めぐ}って

須戸 この度の巡回では旋謡法を勉強して頂いたのですが、難しいと思わずに、楽しみながら努力をして下さい。

若い時は勢いで勉強します。老いたらゆつくりと、和やかに、丸味がある勉強が出来る

と良いですネ！
心の表情
は、声の
表情。
声の表情
は、顔の表情。



大谷眞龍師範

は、顔の表情。
暗ればれと、思いつきり、声をだしてお唱えをしてみましよう。

司会 最後になりましたが、日頃梅花について感じていた事などありましたらお願いします。

大谷 私の講でもそうですが、最近はい講習さんが増えないので、どうしたら気軽に入講して頂けるか悩んでおります。

また皆さんにお願いしたいことは、上級、初級の別はあっても常に仲よい梅花講をお願いしたいと思います。

須戸 梅花の根本は「お誓い」を通して、仲よく、明るい世の中で、正しい信仰に生きましようということだと思えます。

これから、やる気。本気。根気。勇氣。陽気。元氣よく。梅花流詠讚歌をお唱えして日々を過して行きましよう。

司会 いろいろと御教示下さいまして感謝申し上げます。これからも御指導の程よろしくお願いします。

(文責・広報部)

事だと思えます。入講間もなく、全くの初心者の私を、まさに手取り、足取りの御指導頂いた事を鮮明に記憶致しております。当時御指導下さる講師は、鷹巣町竜泉寺様比内町全応寺様の各御老師でございました。当教区では、年に五・六回も研修会がもたれ続けましたが、その都度手持ち弁当で講師様を自分の車で送迎し、「自分が知ってある事であれば」と講師も務め、「事務局だから」と講師謝礼も受け取らず、私達の我が儘で生意気な注文を、嫌な顔一つせず淡々とこなしておられたのが事務局長本宮寺佐藤広俊師範でした。

お陰様で、私共の第九教区(能代・山本地区)における梅花流は、この頃を境として飛躍的な成長を見たのでした。

「地元で、それも気安く参加できるように」と、入会、研修下さる方が回を重ねる毎に急増し、多数の師範・詠範が誕生したのでした。その所産が多く、講及び講員という形で、今日大輪の花を咲かせております。

去る六月二十一日。元県北梅花研修会事務局長、大館市本宮寺住職・佐藤広俊一級師範は、忽然と正に忽然として逝かれてしまいました。時を失ってはいませんが、師の功績に深甚なる敬意を表しますと共に、御厚誼に対し、衷心より御厚礼申し上げ、法錫他界ではありますが、大寂定中安穩ならん事を御祈念申し上げます。

シリーズ

おらほの梅花講

せい たく じ 盛 沢 寺

住所 山本郡峰浜村水沢字水沢
 十一番地（第九教区）
 設立 昭和四十一年
 講長 富 岳 安 正
 講員数 三十五名

私の菩提寺「盛沢寺」では、以前より吉祥講が毎月二十八日に行われておりました。その日はお寺参りが待ちどおしくて、読経に続いての「三世諸仏」の唱和とお拝、方丈様のお話を聞きまして、当番のお方の手料理を頂き、楽しい一日を過ぎて参りました。

ある時この吉祥講の日に、方丈様がガリバン刷りの「三玉御和讃」の歌詞を私達に渡してレコードを聞かせてくれたのが梅花流詠讃歌との最初の出合いです。

それから月日が流れて、昭和四十一年頃になってようやく「おらほうでも梅花講を設立しましょう」という話が出され、初めて教典・法具等を準備して今日に致っております。

今では、方丈様、若方丈様、奥様参加の

新本堂での記念写真



もとに毎月の練習会が開かれております。また研修会や奉詠大会にもほとんど参加しております。一泊研修会にも方丈様から指名されて参加しました。厳しい中にもじつに良い勉強になりました。

さて、私共のお寺も本堂が平成三年に新築されました。その竣工式に「開山忌御和讃」等の奉詠を致し、新しい本堂に鈴鉦の音を響かせることが出来たことは、講員としての喜びであり、誇りと感じております。またその折に出席された佐々木禅彦先生、柳川浩二先生の独詠には、満堂肅として、声も無く、只只心に染み入るばかりでした。

この様な機会に会うことの出来るのも梅花服に身をつつみ輪袈裟を頂戴出きた賜物と深く感謝申し上げます。

これからも、合掌の日暮らしで一日、

テレホン梅花予定表

☎ 〇二八—(73)—七六七六

月日	曲目
8・19	永平寺二祖国師讃仰御詠歌
8・26	永平寺二祖国師讃仰御詠歌 (永光)
9・2	報謝御和讃
9・9	高祖承陽大師修行御詠歌 (菩提)
9・16	彼岸御詠歌 (香華)
9・23	彼岸御詠歌
9・28	高祖承陽大師入寂御詠歌
10・7	達磨大師御詠歌
10・14	達磨大師御詠歌 (廓然)
10・21	総持寺二祖国師讃仰御詠歌
10・28	総持寺二祖国師讃仰御詠歌 (永光)
11・4	太祖常濟大師誕生御詠歌
11・11	太祖常濟大師修行御詠歌 (菩提)
11・18	太祖常濟大師讃仰御詠歌 (法灯)
11・25	大聖釈迦如来成道御詠歌
11・30	大聖釈迦如来成道御詠歌 (明星)
12・2	坐禪御詠歌 (浄心)
12・9	誓願御和讃
12・16	同行御詠歌
12・23	同行御詠歌
12・30	同行御詠歌 (道交)

一日を大切に過して行きたいものと念じて
おります。

紹介者 講員 田村 アサエ

**ふもんいん
普門院**

住所 河辺郡雄和町新波字新町
(第十二教区)

設立 平成三年

講長 本門 雅憲

講員数 三十一名

普門院梅花講は平成三年の講設立、まだ
まだヒヨコの集団です。以前から声をかけ
ていたのですが、なかなか人が集まらず、
平成五年頃によく講として定着しまし
た。見た事も聞いた事もない人が多いため
当然だったかもしれません。

他の講でも同じでしょうが最初はコピー
から始めました。すぐに教典だけを購入し
てもらい、涅槃会の法要の前に奉詠しまし
た。『涅槃会御和讃』・『三宝御和讃』・『修
証義御和讃』等二曲づつ毎年の涅槃会に奉
詠してきましたが、鈴鉦を使うようになった
のはようやく去年からです。半年程で去
年の中央県南地区奉詠大会に参加しました。
白いブラウスに輪絡子で、『正法御和讃』を
おとなえしました。参加人数が十人と少な
かったのは残念でしたが、ようやくここま
で来たという感じで一同大満足でした。

初めての奉詠大会 (平成6年)



今年になって講員が八人増えにぎやかに
なってきました。新たに入った人達が迎え
た涅槃会は、鈴鉦を持ってひと月ですから
大変だったでしょう。曲を覚えるだけでな
く、合掌・唱念・礼・拜・法具の解き方・
組み方等々基本的な所から練習する時間
がなく、いきなりの奉詠となってしまう
た。しかし皆やる気満々で、六月三日・四
日の晋山結制・落慶法要には、ほぼ全員が
参加して式典を盛り上げてくれました。
また先日第十二教区相川寺様を会場とし
た特派師範講習会では、講師の須戸先生が
びっくりするほど元気で、最前列で講習を
うけていました。

秋の全県大会には、第十二教区の皆様と
いっしょの奉詠をさせていただく事になっ
ております。ご迷惑
をかけないかと心配
ですが、一同心待ち
にしてがんばってい
る所です。

紹介者
講長
本間 雅憲

禅センター梅花講習会

◎檀信徒講員講習会 (午前10:30~午後3:00)

月日	講師名	講習内容
9・1	須藤知俊師・富岳正純師	立行・所作・勤行式、その他
10・6	荒川高明師・鈴木道雄師	大聖釈迦如来涅槃会御和讃・御詠歌
11・10	近藤俊貞師・荒川高明師	観世音菩薩御和讃、御詠歌(慈光)
12・1	鈴木道雄師・近藤俊貞師	観世音菩薩御和讃、御詠歌(浄光)
2・2	丹生純雄師・本間雅憲師	地藏菩薩御和讃、御詠歌(慈念)
3・1	丹生純雄師・本間雅憲師	追善供養御和讃、御詠歌(妙鐘)

◎宗侶・寺族講習会 (午前10:30~午後3:30)

9・14	未定	観世音菩薩御詠歌、同二番御詠歌
11・16	山中律雄師	地藏菩薩御和讃、御詠歌
2・16	柳川浩二師	追善供養御和讃、御詠歌

※都合により講師や内容等に変更あります。電話0188-68-6871

※都合により日程曲目の変更あります。

平成八年	1・6	大聖釈迦牟尼如来御詠歌
	13	(紫雲)
	20	大本山永平寺第一番御詠歌
	2	(溪声)
	20	高祖承陽大師第一番御詠歌
	27	(梅花)
		高祖承陽大師讚仰御詠歌
		(法灯)

ごころをよむ (九)

戦災精霊供養御和讃

平和祈念御和讃

あの日あの時あの炎

業火は焼きし被災地に

栄ゆる今日は帰れども

帰らぬ生命いかにせん

（戦災精霊供養御和讃）

二人の恩師のこと

ことしもまた八月十五日——「終戦の日」
がまもなくやってきます。私はこの日を迎
えるたびに、小学校時代の二人の恩師のこ
とを思い出します。北川先生と野呂田先生
お二人とも師範学校を卒えたばかりのぱり
ぱりで、それは情熱的な青年教師でした。
お二人は子どもの教育にあたって地域や父
母との結びつきを大切に考えたのでしよ、
積極的に地域に飛びこんでいました。走る
のはあまり得意でなかったのか、青年団の
マラソン大会でふーふーびりっこを走って
いた野呂田先生、不器用ながらにこにこ楽
しそうに盆踊りの輪の中で踊っていた北川
先生の姿がほほえましく思い出されます。

お二人は相次いで出征され、そしてお二
人とも戦死されてしまったのでした。もし
戦争などなかったなら、すばらしい教育者
になっていただろう二人の若い教師の生命
を、戦争は無残にも奪い去ってしまったの
でした。

アジア諸民族に与えた苦しみ

戦争は、戦場でそして沖繩、広島、長崎
や東京で三百万人といわれる多くの同朋の
貴い生命を奪い、街を破壊しました。また
あの戦争のためにどんなに多くのひとびと
が運命も狂わされたかれません。しかし
同時に忘れてならないのは、日本が起こし
たあの戦争が朝鮮や中国をはじめアジアの
ひとびとにたいして耐え難い苦しみ、悲し
みをもたらしたことです。

終戦の年、私は中学二年生で汽車通学を
していました。四月のある朝のことでした。
通学列車のすべての車両が中国人でいっ
ぱいでした。それは強制連行された中国人の
移送列車だったのです。戦争末期、労働力
不足を補うために中国から約四万人のひと
びとが日本に強制連行されたといわれてい
ます。先日、大館市で「花岡事件」の慰霊
祭がおこなわれたとの報道がありました。
花岡鉦山に強制連行された中国人労働者約
八五〇人が、およそ非人間的な虐待に耐え
かねて蜂起した。しかし蜂起は失敗し、生

き残った者は全員捕られ七月の炎天下さ
まじい拷問をうけた。連行された九八六
のうち生き残って故国へ帰ることができ
たのは五六六人にすぎなかったといわれ
ます。花岡事件は、日本がアジア諸民族
に与えた苦しみのほんの一事件にすぎ
ないという事実を私たちは直視しなけ
ればならないと思います。

不戦の誓い新たに

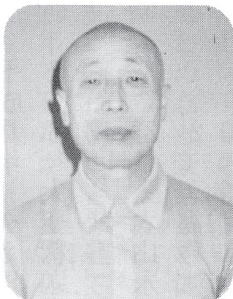
戦後私たちは再びあの過ちをくりかえす
まいと誓いました。この誓いを貫くこと
こそ、戦争で亡くなったひとびとに
対する最高の供養ではないでしょうか。「不殺生戒」
は仏教徒が守るべき第一の戒律であり
ます。戦争こそは最大の殺生といえる
でしょう。終戦五十周年の今年、不戦
の誓いを新たにしようではありませんか。

我らほとけの子として
和ぎ睦みを旨として

再び誰人とも争わじ

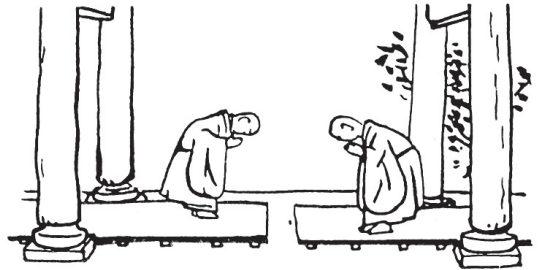
仏前に懺悔して誓わなん

（平和祈念御和讃）



琴丘町
龍江寺住職
荒川高明

チヨット ぶじょほう
じ どうみょう ほう どうみょう
自灯明・法灯明
の中に生きる幸せ



昨年の十二月に、師範会長から宗務所副所長に転身？してから約半年たった。役目柄、梅花関係とはいまだにお付き合いをいただいているが、さて四期八年間、師範会の責任者として在任中、はたして職務を全うし得たろうかと考える時、反省点は多いが、どうやら新たな路線は一応軌道に乗ったように思われ私なりに自己満足している。それもこれも何といつても、前事務局長の奥山芳寿師のお蔭である。

師の献身的なお膳立てによって、新企画が具体化され、年ごとに充実した事業として展開されていった。もちろん師範会、各役員さん方のそれぞれの役割におけるご尽力については申すまでもなく、感謝にたえ

ないのであるが、その要めとなつたのはやはり事務局長である。

後日、奥さまからお聴きしたところによると、超多忙の身でありながら事業の前日には、夜を徹してワープロを打ち資料づくりをしておつたとのことである。このような縁の下の力持ち”的存在は師のみでなく、各師範さんにも云えることであり、それらが秋田県梅花講を支えているのだと痛感している昨今である。

ところで諸事業の中で、一番の印象深いのを挙げるとなると、やはり議員一泊研修会であろう。この企画は私が会長に就任する前から、うちの寺で開催されたのが最初であり、現在すでに十九回を数えている。

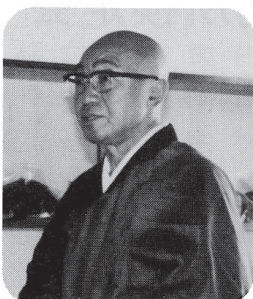
その時どきの受講者との出会いは、本当に有益であった。これが縁となつていまだにお付き合いしている方もいる。

この会の特徴は、詠唱の向上と、より信心を深める体験、精進の集いである。本庁研修にもない法話、坐禅、三時の勤行、食作法、作務等の、まさにミニ授戒会そのものといつて良いだろう。最近はさらに、万灯会供養を取り入れた。自己の貴さの光りの自灯明、さらにそれが寄り集つて法灯明となり無明を照らす法会の感動はたえようがない。梅花講師であつてよかつたという喜びを、最も感じる時間であろう。

事業の次に挙げるとすれば、会報「同行」の発行である。始め提案した時、果して存続できるか心配されたが、現在もこのように順調に出されている。当初師範会の機関誌をとうねらいであつたが、その後秋田県梅花講全体の会報という性格を帯びるようになった。つまり師範、講長、寺族、議員の皆さんに読んでいただく。また発表、交流の情報誌でもあるわけだ。

ただ最近では師範会の財政の中で、この発行費、郵送費などがかなり大きく占めるようになった。その点公的援助を望む声もあるが、やはり今後は受益者負担の原則からは僧俗一体となつて、いわゆる民間主導型の独立独歩、誰にも気がねせず主張し、交流しあい自由な誌面の展開を今後とも続けてほしいと願っている一人である。

今回は、編集者の希望に応じて回顧的な内容になつたが、これを踏み台として更に飛躍しましょう。



合川町
 太平寺住職
亀谷健樹

受検者心得

- 一、受検教階、受検課題を間違えぬこと。
- 二、一教階毎に検定が厳しくなります。
- 三、検定時「やり直し」は許される範囲で認めます。
- 四、輪絡子を掛けて、講員章、教階章を所定のところに着けて下さい。
- 五、要はどのくらい唱え込んでいるか、作法所作が出来ているかを見る機会です。合格、不合格にかかわらず、実力発揮また今後の精進につながる好機と心得て臨むようにして下さい。
- 六、検定にはいる前、会場にて出題曲を発表します。

受検に際しての各教階毎の留意点

1	きょう どう 教 導	だしょうめいれい 打鉦鳴鈴し、リラックスして唱えましょう。	6	ごんだいきょうどう 権大教導	はんでん 教典の反転の仕方・和讃から詠歌へ続けて奉詠する所作が出来ること・鈴鉦が正確であること・立行が出来ること。
2	ごんせいきょうどう 権正教導	えいだい 詠題も唱えられるようにしておきましょう。	6	だい きょう どう 大 教 導	さぎょう 坐行、立行、特別所作が正確に出来ること・鈴鉦、詠唱が正確であること・出題三曲の内、一曲は全曲唱えてもらいます（但し途中までのこともあります）。
3	せい きょう どう 正 教 導	ねんじゆ 念珠のかけ替えを忘れないように・「紫雲」の特別所作が出来るように・一仏両祖をお唱え出来るように。			
4	ごんちゆうきょうどう 権中教導	りつきょう 替節も出来るように・立行の所作出来るように。	8	さんきゆうきょうはん 三級教範	全曲を唱えられること・勤行式が出来ること・イロ、ツヤが出来ること・曲の途中からでも唱えられること・鈴鉦が正確で優れておること。
5	ちゆうきょう どう 中 教 導	念珠の掛け替えを忘れないように・立行の所作が出来ること・鈴鉦が正確であること。			

宗務所検定会

- 9月1日(金) 中央地区
秋田市さとみ温泉
- 9月7日(木) 11・18教区
比内町寿仙寺
- 9月19日(火) 9・10教区
二ツ井町きみまち阪ヘルスセンター
- 9月25日(月) 県南地区
大内町楠山荘
- 11月4日(土) 三級教範
秋田市補蛇寺

編集後記



◎まず御詫びして訂正をお願いしますのは前回の九号は、鹿角市の岩館祖芳師の編集になるものでしたが、編集者名は八号のものが乗ってしまいました。同師には大変御迷惑を掛けました。

◎三月の役員改選で新会長が決まり、事務局長に本宮寺様が就任したばかりでしたが、六月二十一日に急逝してしまわれました。柳川師範の一文にもある通り、現在県内で活躍している大部分の師範の方々は「県北梅花研修会」に在席して上級へと進み、中から特派師範も生まれて来ました。秋田県梅花の大功労者です。

◎大館鹿角地区を主に対象とした「講員一泊研修会」が花輪の恩徳寺様を会場にして開かれます。九月二十一・二十二日です。